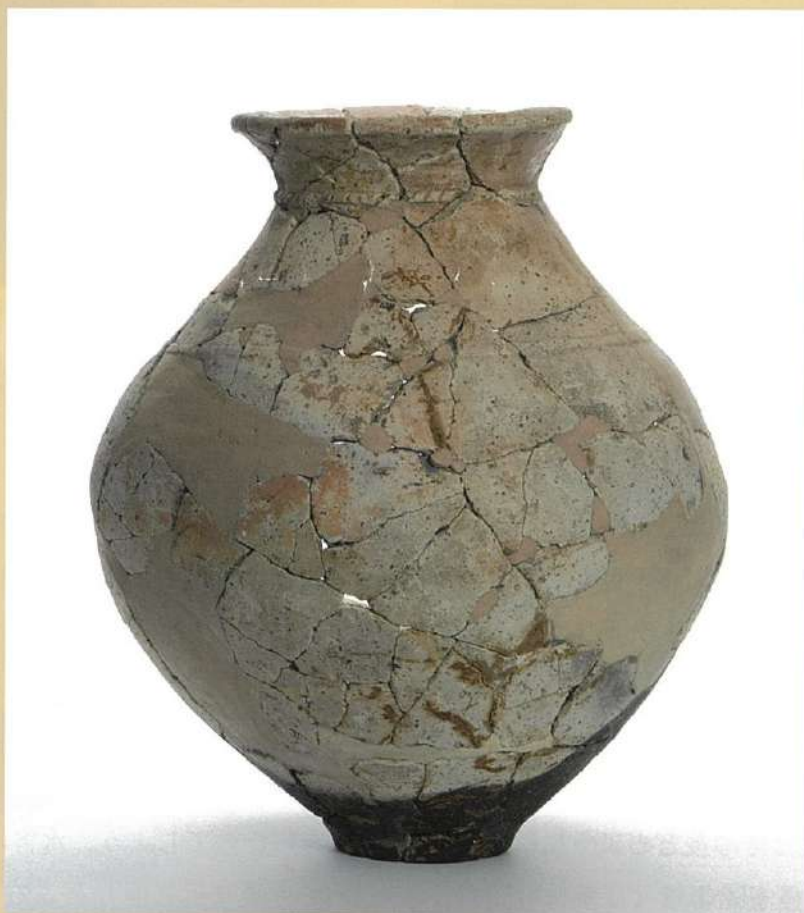




おん が がわけい

遠賀川系土器 壺

あら お みなみ

弥生時代前期 荒尾南遺跡（B地区Ⅱ） 大垣市

岐阜県文化財保護センター蔵

弥生時代のはじめ、稲作や金属器などの新しい文化が北部九州から日本列島に広がりはじめます。^{おん が がわ}遠賀川系土器は北九州を中心とする地域でそのころ生まれた土器です。北部九州の弥生人と朝鮮半島から移住してきた渡来人の交流によって作られたと考えられ、その後、水田や農具といった稲作の技術とともに西日本一帯に広がりました。この土器は稲作文化の指標とされ、美濃地方を含む東海地方には弥生時代前期のおわりに伝わったと考えられています。

遠賀川系土器は、平野部の大垣市荒尾南遺跡や岐阜市鷺山蟬遺跡などのほか、揖斐川町や山県市などの山間部の遺跡でも見つかっており、弥生時代前期の段階で美濃地域の広い範囲に稲作文化が伝わったことがわかります。

（企画展「実りの考古学—美濃の農耕事始—」にて展示）

館蔵資料紹介

はらさんけい いすかのがわしよけん 原三溪「伊豆狩野川所見」

紙本墨画淡彩 昭和4年(1929)

総 208cm×45cm 本紙 135cm×34cm

【作品解説】

原三溪(1868～1939)は佐波村(現岐阜市柳津町)の出身で、若くして上京し、近代を代表する実業家の1人として活躍しました。一方、古美術の蒐集家としても著名で、自身でも多くの書画を制作しています。

本作品に描かれた狩野川は、伊豆半島を流れる狩野川水系の本流で、江戸時代から鮎の友釣りが盛んなことで知られています。この年、三溪は伊豆長岡の別荘に田舎家を移築しており、本作品にも三溪がこのころ実際に見た情景が反映されているものと想像されます。川釣りをする人や川辺で酒を飲みくつろぐ人々のユーモラスな表現が印象的な作品です。本作品は、4月13日(日)まで分室「原三溪記念室」にて展示予定です。



利用の御案内

■ 開館時間 午前9時～午後5時

(歴史博物館の入館は午後4時30分まで)

※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

■ 休館日 毎週月曜日と祝日の翌日、年末年始

(12月28日～1月3日)

(月曜日が祝日の場合はその翌日)

※特別展・企画展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

■ 観覧料

高校生以上…310円(団体250円)

小中学生…150円(団体90円)

※特別展はその都度料金を定めます。

※団体は20人以上

※下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。(ミライロID可)

①岐阜市在住の70歳以上の方(特別展を除く)

②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、難病に関する医療受給者証の交付を受けている方、及びその介護者1名様

③家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生の方

④③に同伴する家族(高校生以上)の方(特別展を除く)

⑤岐阜市内の小中学生

※原三溪記念室は、無料でご観覧いただけます。

■ 交通案内

JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、徒歩約5分。

お車でお越しの際は、岐阜公園駐車場をご利用ください。

詳しくは岐阜市歴史博物館ホームページをご覧ください。

<https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/>



＜原三溪記念室＞

岐阜バス西部三田洞線 下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分。

岐阜バス西部三田洞線 もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車。

博物館だより No119 2025.3

編集・発行 岐阜市歴史博物館

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館(4/14まで休館)

(分室) 原三溪記念室

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ————— ☎058(265)0010

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ————— ☎058(264)6410

〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階 ————— ☎058(270)1080